

ベンチャー企業等による新エネルギー技術革新支援事業

平成30年度予算額 **19.0億円（18.5億円）**

事業の内容

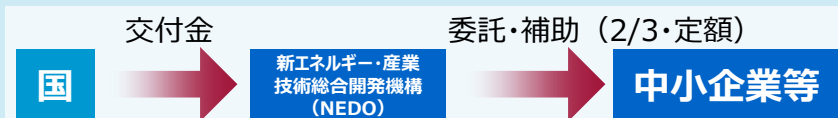
事業目的・概要

- 中小・ベンチャー企業等は新エネルギー等に関する潜在的技術シーズを有していますが、これを幅広く発掘することにより、新エネルギー等に関する新たな技術の開発・実用化が促進され、更なる新エネルギー導入の促進が図られるとともに、今後の成長分野である、新エネルギー分野における起業の増加、新産業の創出も期待されます。
- このため、本事業では、FS調査や事業化に向けたコンサルティング等の人的サポート等も活用しながら、技術開発段階から事業化段階まで一貫して支援します。また、福島イノベーション・コースト構想の推進につながる新エネルギー分野の技術開発や実用化・実証研究については、支援を強化して取り組みます。
- 対象技術分野は、エネルギー基本計画等に示される下記の分野です。
 - ① 太陽光発電、風力発電、水力発電、地熱発電、バイオマス利用、太陽熱利用、その他未利用エネルギー分野。
 - ② 再生可能エネルギーの普及、エネルギー源の多様化に資する新規技術（蓄電池、エネルギーマネジメントシステム等）。

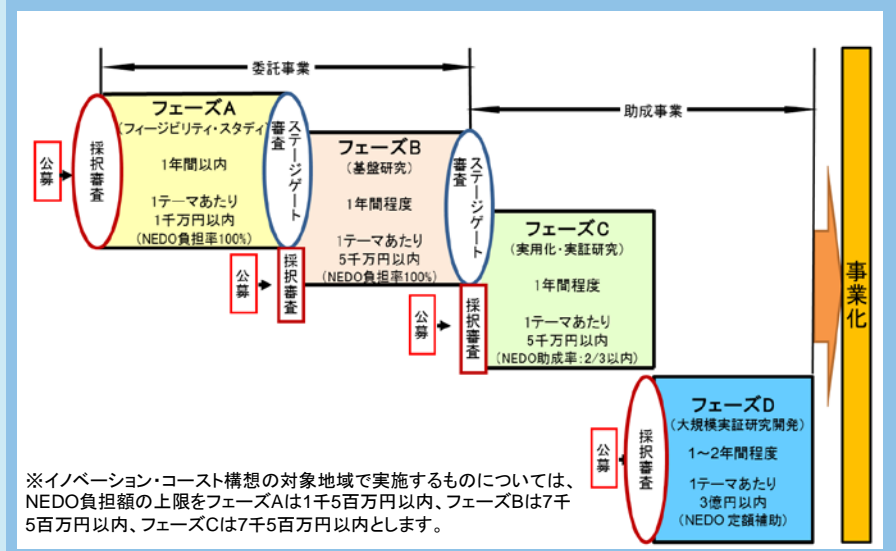
成果目標

- 平成19年度からの事業であり、本事業で採択したもののうち50%を事業終了後3年以内に事業化することを目指します。

条件（対象者、対象行為、補助率等）



事業イメージ



研究開発支援前後において、市場ニーズの調査、事業成果の発信と併せて行うビジネスマッチング会の開催、特許戦略に係る支援、外部専門家によるビジネスコンサルティングなどを実施。

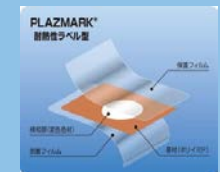
事業化（事例）

太陽電池アレイ故障診断技術の開発



従来、太陽電池の設置現場で、実測による故障診断を行っており、高コストで作業効率が悪く、測定精度が低いという問題があった。本事業成果として、太陽電池モジュールの断線故障の検出と故障場所推定が可能となった。

プラズマインジケータの技術開発



太陽光パネルの生産時、効率を上げるための極薄アモルファス膜をプラズマにより形成しているが、プラズマ照射が均一であるか確認が困難かつ高コストであった。本事業成果として、インジケータの色変化により、プラズマ照射処理効果が容易に確認可能となった。